

# 八ヶ岳通信

総合博物館

民俗資料収蔵品展  
—明治・大正・昭和の農具—

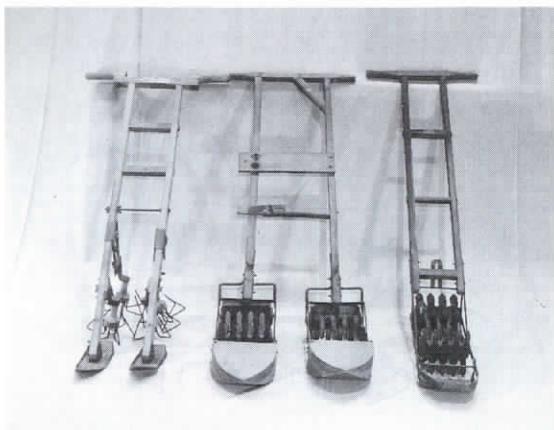
稻作・養蚕

11月13日(日)まで  
開催中



田の草取り（写真提供 長野県農事試験場原村試験地）

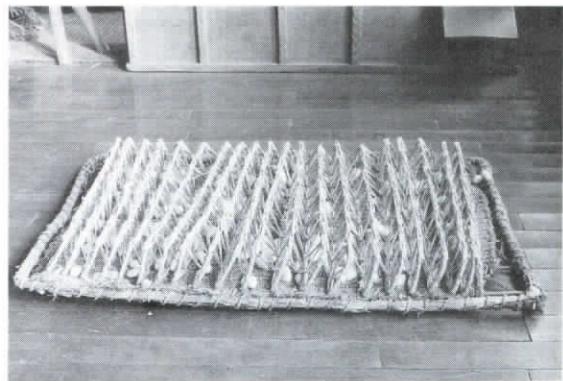
田の草取り（除草）は、普通、年に3回手で行い、その間に除草機を使って2回ほど行いました。除草機に付いている鉄の爪が押される事で回転し、回転する事により、爪が雑草を泥の中に押し込んで除草しました。



除草機

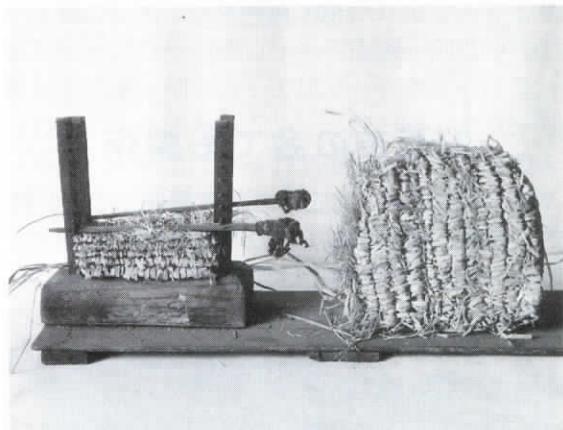
昔…と言っても、今よりほんの少し前、八ヶ岳山麓に住む農家の人々は稻作と養蚕を生業としていました。お米を作る事でその年の食糧を確保し、まゆを出荷して現金を得ていました。当時は村のあちらこちらで家族総出の農作業をしている姿を見かけたものです。けれども今では、養蚕農家が激減したり、稻作の機械化が進んだりとで、こうした風景は、なかなか見られなくなりました。

昔なつかしい田畠の風景には、いつでも農具がありました。農具をご覧になりながら、当時の農作業を思い出してみてはいかがでしょうか。



改良まぶし折機で折ったまぶし

まぶしは蚕がまゆを作るための場所です。初期のまぶし折機で折られたわらまぶしはとても苦労して作られていました。しかし、昭和中期には、改良まぶし折機が開発されたので、作業が楽になりました。



初期のまぶし折機とまぶし

## 市役所前のモニュメント

写真は、平成6年度に市役所新庁舎前に建てられたモニュメントです。すでに新庁舎を訪れた方は、入り口にあるこのモニュメントをごらんになっていると思います。これは、茅野市ライオンズクラブが30周年の記念事業として茅野市に寄贈されたものです。

庁舎の入り口にあり、道路沿いでもあるため、市役所を訪れる方ばかりでなく、多くの人の目を引いています。説明がないため、この土器についての問い合わせが相次いでいます。

そこで、この八ヶ岳通信の紙面を借りて、紹介することにしました。



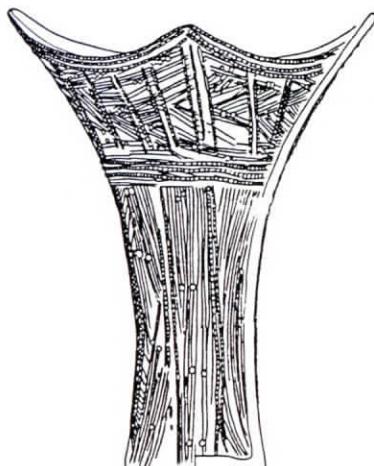
## 下ノ原遺跡出土の土器

この土器は、昭和53年に茅野市玉川にある下ノ原遺跡から出土したものです。現在茅野市運動公園となっている場所ですが、その建設に伴う造成工事に先だって行われた、発掘調査で出土しました。

縄文土器の中ではかなり細身といえる胴部から、大きく広がった4つに分かれた波状の口縁部までの曲線が実にすばらしく、器面全体の文様も丁寧に施されています。

縄文時代前期の後半に作られた土器で、尖石遺跡や棚畠遺跡に代表される、この後の中期の土器とはまた違った美しさをもっています。

実物は尖石考古館に展示してありますので、ぜひご覧下さい。



## 尖石友の会でも製作

尖石友の会は、考古館が毎年開催している縄文土器製作教室の参加者の中から生まれました。年に一度きりの製作では満足できない縄文土器に魅せられた人達が集まって結成されました。

毎年5月から11月までの7カ月間が主な活動期間で、毎月第2の土・日曜日を中心に行っています。その間に何回も製作と野焼きを行われます。

この下ノ原遺跡出土の土器は、以前から友の会でも人気のあったものですが、市役所前にモニュメントが建てられたのを機会にみんなで製作することにしました。

茅野市芸術祭にこれを出品しようと考えている会員も多くいるので、ぜひ作品をご覧下さい。



## 平成6年度の文化財調査室の事業

茅野市は古くから先人たちの生活の場として頻繁に利用され、歴史を伝える文化財が数多く残されています。これらの貴重な文化財を保護・保存・活用を図ることは私たちの責務です。

文化財調査室は貴重な文化遺産の調査を行い、保護・保存・活用するための活動を行ってています。特に埋蔵文化財では国特別史跡尖石遺跡などの遺跡を始め、市内には約300ヶ所の遺跡が残されており、現在茅野市域において行われているほ場整備、区画整理、住宅団地造成、工業用地造成等の公共事業や、民間の開発等に伴う発掘調査により、数多くの貴重な成果が得られています。

平成6年度における発掘調査は9ヶ所の遺跡で実施されており、市域においては初所見の成果や興味深い資料が得られています。特に広井出遺跡での縄文時代前期のムラの様子や、家の下遺跡での弥生時代のムラ、稗田頭A遺跡での鉄鐸・縁釉陶器などの特異な遺物は興味深く、今後の茅野市の原始・古代の歴史を探る上に貴重な資料となります。

**広井出遺跡** 当遺跡は茅野市金山集落の南東約200m、周辺を畠や水田に囲まれた台地上に立地します。今年7月より調査を開始し、現在までに9軒の竪穴住居址といくつかの土坑が発見されています。竪穴住居はいずれも縄文時代の前期前葉のものと思われます。土坑には更に古い縄文時代早期前葉の押型文土器、早期末の縦条体庄痕文土器が出土するものがあります。近くには同じ縄文時代前期前葉の大集落である神ノ木遺跡（神ノ木式土器標識遺跡）があり、当遺跡との関係には興味深いものがあります。



**稗田頭A遺跡** 本遺跡は、泉野棚木に位置する縄文時代後期（住居址7軒）・平安時代（住居址4軒）の遺跡です。平安時代の住居址より縁釉陶器碗（写真▶）・鉄鐸が出土しています。縁釉陶器碗は茅野市では阿弥陀堂遺跡（塚原）より出土しているだけであり、山浦地方では初めての出土です。鉄鐸は御狩野遺跡（御狩野）から出土し、現在でも諏訪大社と小野神社に伝わっており、諏訪大社との関係が考えられます。平成4年度にも発掘が行われており、縄文時代中期から後期の住居址が39軒出土しています。



**家の下遺跡** 茅野駅の西側、横内区内に位置します。調査では弥生時代を中心に、古墳・奈良時代の住居址等が発見されています。

茅野市には、縄文時代の遺跡が多くあります。しかし、これらに続く弥生・古墳・奈良時代の遺跡はあまり知られておらず、人々がどこで、どのような生活をしていたのか、はっきりしていません。家の下遺跡の発掘により、当時の人々の生活の様子が明らかになろうとしています。

写真は方形周溝墓と呼ばれる、墓穴を溝で囲んだ遺構です。市内では初の発見となりました。



## 常設展入替る　—10月より新展示—

本年度の常設展は、4月から9月までの前期と、10月から来年の3月までの後期の2回に分け、展示替えをしました。

「道祖神」  
増沢莊一郎



前期は、日本画で矢沢弦月「渓橋」など8点、洋画で矢崎牧廣の「蘇州城外」など海外作品7点、矢崎博信の「花」など7点を含めた展示をしてきました。

後期は、小作品を含め、美術館所蔵の主要作品を展示しました。

書で津金雀仙の「聴蟬」「木瓜山」の掛軸、彫金でアザミと蝶をモチーフとした三村昌弘の「草原の追憶」、洋画で高橋貞一郎の「静物」や高橋靖夫の「諏訪湖旭光」、彫刻で藤井浩佑の「椅子に凭る女」などの小作品があります。版画では増沢莊一郎の「道祖神」を含め4点と、師である武井武雄の鳥のシリーズ4点を同時展示しました。また、豊科近代美術館で約1ヶ月企画展示された宮芳平の「母と子Ⅰ」とⅡ、中川紀元の「黒衣の女」、新収蔵品として、湖東出身で、石井柏亭や有島生馬らに教えを受けた小平鼎の「安曇野の七夕」等を含む67点を展示しています。

## 第14回小中学生作品展

絵画の部 11月5日(土)  
～11月20日(日)

書写の部 7年1月28日(土)  
～2月12日(日)

毎年回を重ねてきた小中学生作品展の「絵画の部」の作品の内容が少しずつ変ってきました。

中学生においては、写生による作品に加え、木彫レリーフや木箱への彫刻など、立体作品が出展されるようになりました。絵画やデザイン画などの平面作品に加え、作者の個性がより一段と鮮明になり、見る人を楽しませてくれるようになりました。

小学校低学年の、のびのびと描かれた動物や夢の世界、高学年の、しっかり捕えられた対象物。中学生の、ノミの刻もあざやかな立体を展示します。子供時代の成長の過程で生まれる作品の数々を、ご覧ください。

また、8月のお盆成人式に合わせた「小中学生保存作品展」は絵画のみの展示でしたが、來



(昨年度の作品展から)

館された方が、展示してあった友人の作品を見てそれを本人に知らせて下さるなど大変好評でした。次回は、書の展示についても検討中です。

### 八ヶ岳通信 No.12

発行年月日 平成6年10月31日

編集・発行 茅野市八ヶ岳総合博物館  
〒391-02 茅野市豊平6983番地  
TEL. (0266) 73-0300

茅野市尖石考古館  
〒391-02 茅野市豊平4734-132  
TEL. (0266) 76-2270

茅野市教育委員会文化財調査室  
〒391 茅野市塚原2-6-1  
TEL. (0266) 72-2101㈹

茅野市美術館  
〒391 茅野市玉川1500番地  
TEL. (0266) 73-5440

茅野市神長官守矢史料館  
〒391 茅野市宮川389番地の1  
TEL. (0266) 73-7567